

# 豊かな生活力をはぐくむ 技術・家庭科教育

## —学びと生活をつなぐ授業の工夫—

- ・家庭や家族、地域とのかかわりの重要性に気づかせ、いろいろな家庭の姿を学ぶことで改善点を考えさせる。
- ・豊かな生活をはぐくむために一人ひとりが自分にできることを考え、実践できる力を身につけさせる。
- ・幼児に関心を持ち、幼児の生活の中心である遊びを通して、自分と家族や周囲の人々とのかかわりについて考えさせる。
- ・幼児とふれ合うことで、幼児に対する理解を深め、幼児が暮らしやすい社会について考えさせる。

### 1. はじめに

現在の社会において、家庭や地域社会の「教育力」の著しい低下、家庭における幼児虐待、幼児が犠牲になる事件などが深刻な社会問題となっている。また、時代とともに家族や家庭の機能が変化し、地域の連帯感や人間関係が薄れてきている。そこで、家庭や家族、地域とのかかわりの重要性に気づかせることを目標とした中学校家庭分野の役割は大きいと考える。

主題である「豊かな生活力をはぐくむ」ために家族・家庭と子どもの成長に関する学習をもとに、生徒自らが家庭の機能や家族関係の重要性に気づき、自分なりの課題をもち、よりよい生活を送るための実践的な態度を育てたい。また、生徒一人ひとりが自分の将来に向け、心豊かに生きる力をはぐくんでいける実践を紹介する。

### 2. 実践について

#### (1) 基礎題材（ガイダンス）について

##### ①題材名 「自分の家族について考えよう」

まず小学校家庭科での学習をふまえて、家庭分野のガイダンス的な内容として扱う。中学校3年間の学習を見直し、学習意欲をもって取り組むことができるように家族の一員としての意識を高める。そして、家族とのかかわりや自分の生活に関心を持ち、家族関係をよりよくする方法を考えることができるようにした。

本題材では生徒の家庭の事情に考慮し、テレビドラマやアニメに出ている家族を取り入れて授業を構成し

た。家族にはさまざまな形態があり、変化していることに気付くことができるよう、家族の役割について考える。また、それぞれの良い点と、より良くなるための改善策について話し合う中で、自分の家族を少しでも客観的にとらえることができ、家族への思いや関心を高めさせた。

見慣れているテレビドラマを使って考えたため、生徒はいろいろな家族の姿について意欲的に考えることができた。改善点を考えていくことで、どの家族も努力次第でよりよい家族になれることに気付くことができた。また、家のことを親などに頼っていた部分が多かったが、「手伝うと良い」「協力すると負担が減る」といった発言も出て、自分の家族への思いにも近づけることができた。その後、衣・食・住・その他あらゆる家庭の働きについて自分にできることを考えていく必要性を感じることができた。

#### (2) 基礎題材について

##### ①「幼児を知ろう」

基礎題材では、第2次反抗期をむかえ自立をめざす中学生に、自分で自分の成長を振り返ることによって自分を見つめ直すことは意味のあることと考えさせる。また、自分一人で生きてきたのではないことに気づかせることも必要である。生まれた時の様子や幼児期のエピソードを家族や自分のことを知っている周囲の人たちから聞き取り、幼児に関心を持ち、幼児の生活の中心である遊びを通して、自分と家族や周囲の人々と



のかかわりについて考えさせたい。そのことを通して人間として成長するために必要な成長の様子や生活習慣な

どを学ばせ、さらに幼児と触れ合うことによって理解を深め、どうしたら幼児が暮らしやすく安心できる社会になるのかを考えさせたい。

### 【幼児とふれあう中学生】

幼児のかわいいしぐさや体の大きさに中学生は自然と優しく話しかけたり、笑顔でふれあったりすることができた。全身で向かってくる幼児を目の前に、生徒も心を開き、頼られるお兄さん、お姉さんとしてとても素直な表情で接することができた。幼児とのふれあいは、言葉だけでは理解できない大切さを感じられた。

### （3）発展題材について

#### ①題材名 「幼児の食生活を考えよう」

発展題材では、幼児の食生活に焦点をしばり、幼児向きのおやつやお弁当づくりを体験させながら学習を進める。「食育」の重要性が取り上げられている今、家庭でのおやつやお弁当づくりを通して、学校での学びを一度家庭で実践し、家族からアドバイスをもらったり、改良点を見つけたりして、それを再び学校での学びに生かしていきたい。

まず、中学生の自分たちと幼児の食生活の違いについて学習する。そして、幼児の消化器は未発達であること、胃が小さいので一度に多くの食事がとれないのでおやつも食事の一部であることを学んだ。知識だけでなく、実際に技能として身につけられるように、栄養面や幼児が喜びそうな盛りつけなどを考え、幼児のおやつ作りをした。その後、発展内容として食事作りに挑戦し、幼児が喜ぶ弁当作りを計画した。小さい頃の弁当作りで、お家の方がどんな工夫や、苦勞をしたのかを聞き、弁当作りの参考にさせた。また、家で練習をしてお家の方からアドバイスをもらい、学校での弁当作りに生かして実習するように促した。

### ②授業記録



【実習の様子】



【必要な分だけ材料をもってくる工夫】



【幼児が喜ぶ盛り付け】



【色合いや栄養バランス良く】

調理器具の関係や時間短縮、相互評価を取り入れたため、ペア学習で弁当を作る。作った弁当を二人で分け合いながら一緒に食べた。ゆっくりと試食する時間はなかったが、弁当を作る苦勞や親への感謝の思いなどを話しながら、おいしい、おいしいと言って食べる姿が見られた。

ペア実習をすることにより、片付けと調理が同時に進行でき、最後の片付けまで時間内に終わることができた。また、お互いに試食することにより自分では気付かなかったことをアドバイスしてくれたり、ペアの動きを見て参考になることもあり、収穫の多い実習となった。

### 3. 終わりに

自分の育ってきた様子を家庭で調査・実践することにより、自分の成長をふり返り、家族への感謝の思いが深まった。また、家族やまわりの人とのつながりは人が成長するには大きく影響することが理解できた。

幼児とのふれあいは、幼児のかわいさや成長の様子を実感することができ、幼児への興味や関心を深めることができた。さらに幼児に適したおやつや弁当づくりを通して食事内容に興味をもち、家族のアドバイスを生かしながら工夫しようとする姿勢が生まれた。今後も生活と学びを結びつける授業実践を重ね、家族やまわりの人とのふれあいや感謝の思いを深め、より良い家庭生活を送ることができるよう自ら考え工夫できるように願っている。